

# 自然環境を取り入れた造形表現の実践

Practical Education in Art and Design Engaging the Natural Environment

草野 葉子\*

KUSANO Yoko

The aim of this practical education, of which the title is “Expression That Uses Cloth”, is not only that the students create their works, but also that they reflect and self-evaluate their activities and works from the perspective of the interactions between medium (cloth), light and air. In order to prompt their self-criticism and to deepen their experience through discussions, we demand the students to archive various nuances on cloth during their creation. This report indicates that there is still a problem of the gap between experience and language, that is, it is difficult for students to tell their experiences and to criticize their works with each other. This is one of future topics of discussion.

## はじめに

本学幼児教育学科卒業必修科目のひとつ「保育表現技術造形Ⅰ」は、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の必修科目に位置付けられている。子どもの感性を豊かにし創造力を養うためには、環境のひとつである保育者の関わりが重要となる考えに立ち、受講者である学生の体験の幅を拡大し豊かな保育環境を創りだせる保育者を目指し授業内容を構成している。幼稚園教育要領<sup>1)</sup>の教育及び保育の基本や保育所保育指針<sup>2)</sup>の保育所の役割として「環境を通して行う」ことが示されている。ここでの「環境」は物的環境や人的環境さらには自然や社会も含めた広い意味がある。これらを造形の立場からとらえて、多様な表現体験の場と、自然を含む身近な環境や生活の場に広く造形素材を求めた授業を実施している。そのひとつである「布による表現」をここでは取り上げた。

造形表現は形あるものを材料として形として残る物を作る活動が主なものとなる。しかし数年にわたる実践の中で、布で形作られた造形物としての作品だけでなく、形として手に取ることのできない環境的要素を含んだ豊かな表現に気づくことができた。布で形作られた物に屋外ならではの樹木や植物のほかに光や風が加わり、布から外に向かって開かれた表現が展開されていた。この体験から学生がより積極的に環境と関わる授業にしたいと考え、当初の課題目標

---

\* 幼児教育学科

「自在に変化する布の特徴と魅力を知る」に、「布と環境との関わり」も加えて7年前から実施してきた。しかし授業後の体験を振り返る活動記録には環境要素への関心を示す内容が少なく、授業者のねらいが十分に反映されてこなかった。この状況を踏まえ活動記録の内容を見直し、環境要素を具体的に記した「課題の目的」欄を設け、記録の一番目の項目を「布の特徴(変化・色・質感や光・空気・環境との関係)について発見したこと」に変更した。環境に注目してすでに7年経過しているが、直後に東日本大震災があり屋外での活動が制限され3年間は室内で行っていたため環境との関わりはの間中断していた。屋外活動を再開して3年目の今年は、記録用紙見直しを行っての2年目にあたる。そこで学生の記録を中心に分析し、環境を取り入れた造形表現の実践結果を検証すると共に、更に自然を含めた環境を表現者である学生がどのように感じ受けとめ、造形活動にどのように反映させているかを明らかにするものである。

## 「布による表現」の実践

### 1. 授業方法

#### (1) 授業基礎情報

- ◎課題目的 ①自在に変化する布の特徴を知る。
  - ②光や空気、活動場所等環境により表情が変化する布の魅力を知る。
  - ③工夫する力を養う。
- ◎使用材料 ①綿白布 90×200cm 1枚／1人 ②紐類 材質・色共に自由で学生持参
- ◎活動場所：杜のひろば ◎活動形態：5～6人のグループ活動

#### (2) 授業の具体的展開

- ◎1回目 テーマ「布と環境」：自在に変化する布の特徴をいかした表現体験。

課題目的と活動内容、全身を使って布の表情を観察するよう事前に説明をする。

【基礎体験－その1】 杜のひろばで布を広げて動かす体験。布を①縦横に持ち替え揺らす  
②空に向かって投げ上げる ③空気を捕まえる  
④マントのようにして走る等の行為をする。  
その都度授業者が学生に対し、布の動きや形の変化、手応えや音等について注目を促し、身体感覚を通して観察するよう指示する。



基礎体験－その1

【基礎体験－その2】 1人1枚の布を使用しての表現体験。学生自身の身体に布を巻き付けた見立て表現を行い、相互に発表し合う。学生の表現に対し、テーマに基づき授業者が形・色・陰影や光・空気との関係について

講評を行う。

◎2回目 テーマ「布と紐と環境」：1回目の体験を基に、紐を加えた課題作品作り。

基礎体験を基にした5～6人の取り組みとなり、布の枚数増加と紐類のほか、杜のひろば全体が素材となることを説明する。あらかじめ決められた作品の形はなく、布と紐そして活動の場となる杜のひろばやその日の天候も含めて環境と対話しながら創り上げていく活動。作品完成後、相互に発表し体験を共有する。作品ごとに授業者が布の使い方や表情、光・空気・環境の視点から講評を行う。



B2：チューブトップなハンモック  
作品取り組みの様子

◎3回目 活動記録のまとめ：1～2回目の活動内容を写真と記録にまとめる。

表現体験の振り返りと活動からの収穫は個人記録に、作品に関してはグループで話し合い作品記録にまとめて記載する。

2016 布による表現

( )クラス( )番 氏名

---

課題の目的 1. 自在に変化する布の特徴を知り、  
2. 光や空気、湿度温度等環境により表情が変化する布の魅力を知り、  
3. 工夫する力を養う。

\*布の特徴(変化・色・質感や光・空気・環境との関係)について発見したこと 5月19日  
布は子供で遊びながら作り、おもしろさを感じることができ、  
たまたまで発見していたけれど、作り進めるにつれて、気がつく。  
おもしろさを感じながら作っていたけれど、布の使い方や環境との関係がわかった。

1. 布を使う上で、あなたはどんな工夫をしたのか  
布をおもしろくするための工夫として布の厚さを調節し、布をよじめる工夫を、  
紐で、紐を強く縛り、また、布を紐でつなげて、布をよじめる工夫を、  
布のスペースを広げ、大きな紐で作品になりやすい工夫をした。

2. 他のグループの作品から発見したこと 5月28日  
布をよじめる、糸をつなげて糸を流して布を洗濯物に  
かけて干したり、自由に発想で見えて楽しかったです。

個人記録

## 2. 活動記録

授業の振り返りの記録と写真を貼付した課題作品記録の2種類がある。

①個人記録：基礎体験と課題作品取り組みの振り返り。

a. 布の特徴(変化・色・質感や光・空気・環境との関係)について発見したこと。

b. 布を使う上で、あなたはどんな工夫をしたのか。

c. 他のグループの作品から発見したこと。

②グループ作品記録：作品タイトル・アピールポイント・メンバー氏名と作品写真を貼ったもの。

個人記録「a」は1回目の授業終わりに記載し、「b・c」と②は授業最終の3回目に記載する。

2016 布による表現【グループ作品記録】 5月17日

A・B・C・D 1 班

作品タイトル  
**秘密基地**

メンバー氏名  
①池田 輝実 ②小関 志歩  
③徳口 夢心 ④柳田 美穂  
⑤佐野 春香 ⑥藤村 明晴

アピールポイント  
・園が深い時に、この場所にはおもしろいことを。  
・正面から見ると、壁で隠れているようにしたこと。  
・裏から見ると、この場所が布の隙間の隙間から見えるようにしたこと。

写真

グループ作品記録

## 実践結果

今年度は、5月12日・19日・26日の3週にわたり、「布と環境」の基礎体験・「布と紐と環境」の作品づくり・「活動記録のまとめ」を行った。活動場所が屋外のため実施については天候に左右され、ここに示した結果は平成28年度入学生幼児教育学科1学年4クラス中2クラス(木曜授業日)のものである。雨のため屋外で実施できなかった他の2クラス(火曜授業日)については建学記念講堂や83年館多目的室で行ったため除外した。屋外で実施できた2クラス70名の活動記録「布の特徴を知る基礎体験」「作品づくりにおける工夫点」と作品記録の「アピールポイント」に記載された内容について、焦点としている環境要素「光・空気・環境」と「布」の視点から分類したものが以下の表1～表4である。

《平成28年度の作品一覧》

B 1	秘密基地	D 1	お店屋さん
B 2	チューブトップなハンモック	D 2	巨大なくもの巣とブランコ
B 3	てるてる三姉妹	D 3	リゾート気分の空中ブランコ～貴族ver～
B 4	鯉のぼり・あじのぼり・ほっけのぼり・マンボウのぼり	D 4	ピクニック風おままごと
B 5	ブランコ	D 5	安らぎの空間(テント)
B 6	森の妖精HOUSE～春ver～	D 6	怪物くん

### 1. 活動記録

#### (1) 光との関わり

基礎体験では、光との関係について全グループが挙げている。中でも〈白さ〉が32件と多く、太陽に布をかざした時に「まぶしい白」「白が輝いて見えた」「外に出た方が白が明るく見えた」などがあった。〈陰影・陰の色〉18件の中には「しわの陰が少し青く見えた」「白い布なのにグレーに見えた」ほか、黒・紫など複数の色名が挙げられていた。また「光にあてると透けて見える」「透明感がきれい」など光が透けて見えた美しさをとらえた〈透明感〉が11件あり、白をはじめとする布の色や見えに関心を示していることがわかる。「布に木の影や私の影がうつっていた」「葉っぱの影がうつってきれい」など木や木の葉など〈影〉に関する記述からは杜のひろばとの関わりがうかがえる。しかし2回目の作品づくりにおいては、工夫点が示すように着眼点が変わり〈色の変化〉3件に対し〈陽光・木もれ日〉が12件と多くなっていた。「光が当たる所と影の所と色々な明るさになるように気をつけた」(B1)「太陽の光に葉っぱが透けて見えるようにした」(B6)など、光や木もれ日を模様とするための布の配置、透明感を生かすための光の取り入れ方の工夫として5グループが

表1 光との関わり

光		B1	B2	B3	B4	B5	B6	D1	D2	D3	D4	D5	D6	
基礎体験	白さ	4	2	3	4	4	3	2	4	2	2	1	1	32
	陰影・陰の色		3	1	2	1	4	2	2	1	1	1		18
	透明感	1	2	3	2		1	1					1	11
	陽光・木もれ日			1			1	2						4
		5	7	8	8	5	9	7	6	3	3	2	2	65
工夫点	色の変化	1		1	1									3
	日陰					1						2		3
	陽光・木もれ日	2	1		2		4					3		12
		3	1	1	3	1	4	0	0	0	0	5	0	18
アピール	日陰		1							1	1	1		4
	影	2									2			4
	透明感						1							1
	陽光・木もれ日				1							1		2
		2	1	0	1	0	1	0	0	1	3	2	0	11

<陽光・木もれ日>を挙げている。その工夫をアピールポイントでも挙げているのは2グループ(B4・D5)のみであった。残りは<影>(B1)・<日陰>(B2)・<透明感>(B6)というように視点が変わってきている。作品づくりの工夫で光について記述のないグループ(D3・D4)が、涼めるや遊ぶための快適さという視点から新たに<日陰>の活用をアピールポイントに挙げているケースもある。また、基礎体験のみでそれ以降の記録には光に関する記述がみられないものが3グループあった。



B6：森の妖精HOUSE～春ver～

## (2) 空気との関わり

光と同様に基礎体験の記録には、全グループが空気との関係から発見したことを挙げている。布をもって揺らす行為や風が吹いてきた時の体験や観察から<膨らみ>17件、<自在に変化>17件、<動き>14件の3項目が多い。「空気を含ませると柔らかいシフォンのよう」「風があることによって命がある生き物のように動いた」「風にあたれば布は気持ち良さそうにゆらゆら揺れる」など空気を含んでふんわり膨らんだ様や風に舞い形を変えてなびく布の姿を繊細にとらえ表現している記述があった。その他「風を感じるとひっぱられる感じ」「縦に持つと重みがありずっしりしていた」「風を受けて布が広がりなびいた時、布を持つ手に負荷がかかった」など布を持つ手に感じた<手応え>が7件。「風の強さによって音の大きさが全く違う」「音も縦の方がずっしりして低い音だった」など風になびいた時の布の

表2 空気との関わり

空 気		B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	D 1	D 2	D 3	D 4	D 5	D 6	
基礎体験	膨らみ	2	2	4	3			3	1	1			1	17
	動き				2		1	3	1	1	3	2	1	14
	自在に変化		4			2	1	2		1	3	2	2	17
	色の変化	3			1	2								6
	手応え	1		1		1		1				1		7
	音	1					1		1	2				6
		7	6	5	6	5	3	9	3	5	7	4	7	67
工夫点	膨らみ		1		1									2
	動き			1	5		1						1	8
	風						2					1		3
		0	1	1	6	0	3	0	0	0	0	1	1	13
アピール	膨らみ	1			1									2
	動き				1									1
	風											1		1
		1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	4

<音>が6件あり、これらの記述からは触覚や聴覚も刺激されていることが読み取れる。基礎体験での空気に関する記載件数は67件あるが、続く工夫点になると13件、アピールポイントでは4件と減少している。内容を見ると注目の高かった<膨らみ>については基礎体験で8グループが挙げていたが、工夫点では2グループのみで関心が低下している。ここでは「空気が入るようにして鯉が空を泳いでいるみたいにした」(B4)など動きのある作品を中心に<動き>に関する記述が4グループ8件と多い。「風通しをよくすることで気持ちよく」(B6)「風を沢山感じられるように」(D5)の記述からは、心地よい空間づくりのための工夫として風に注目したものも見られた。一方で工夫点及びアピール共に記載のないグループが全体の半数に近い5グループある。



B4：鯉のぼり・あじのぼり  
ほっけのぼり・マンボウのぼり

### (3) 環境との関わり

作品づくりの段階から杜のひろば全体も素材のひとつになるため、作品の工夫点とアピールポイントの記載から「環境」が観点の一つとして加わる。

工夫点では6グループ17件あり、「木の葉や花などを使い装飾」(D3)「木の实を使っておままごと」(D4)など草花をままごと道具に見立てたり布に添えて飾りとするほか、「石を入れて風になびかせるために重りを作った」(B4)「石を置いてとばないようにした」(D4)と

表3 環境との関わり

環 境		B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	D 1	D 2	D 3	D 4	D 5	D 6	
工夫点	装飾・小道具				3					2	3		1	9
	模様		1				2				2			5
	緑・樹木		1							1			1	3
		0	2	0	3	0	2	0	0	3	5	0	2	17
アピール	装飾・小道具				1			1			1			3
	樹木				1									1
		0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	2	4

いうように、鯉のぼりの動きの安定性や重石として作品の固定のために石を使用するなどの<装飾・小道具>に関する記述が多かった。<模様>の5件は、「もみじの葉を入れ影を楽しんでもらえるように」(D4)など布に葉を入れて影を作るなどの作品の表情に関するもので、<緑・樹木>の3件は、「緑の多い所に作った」(D3)「(形をつくるのに布を)植物の上にかぶせた」(D6)など作品の設置場所として選んでいたものである。作品のアピールポイントでも<装飾・小道具>を挙げていたのはその中のB4とD4の2グループであり、新たにD1がお店屋さんの商品などの見立てとして木の実や草花を使用したことを挙げていた。しかし環境に関心を示していたのは工夫点で半数の6グループ、アピールポイントでは3グループのみで関心が高いとは言えない。



D6：怪物くん

#### (4) 布との関わり

基礎体験では、「人が包める」「ねじったり、たたんだりできる」などさまざまに形が変わる様子に注目した<自在に変化>が16件あり、中には「布を結んだり広げたりして体にまとうことで、布のしわや線が美しくできたり、自然な曲線ができたりと一人一人違う布のように見えた」と布の変化する様を細やかに捉えたものもあった。また「重ねると濃い白になる」「折りたたむと青っぽくなる」などの<色の変化>が15件。「日光に当たって布が少しあたたかくなった」「肌触りはサラサラとしていて少しひんやり」「ふんわりして柔らかい」など肌触りの柔らかさやサラサラ感など<感触>15件とこの3項目に関するものが多くなっている。工夫点では、布を結ぶ、結んで繋げる、たたんで大きさを調整する、紐状にして枠を作る、布を包みこんで頭を作るなど、作品を形にする工夫としての<形作り>に関する記述が49件と圧倒的に多い。またほとんどのグループが作品の維持や補強などに樹木を活用して

表4 布・その他

布		B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	D 1	D 2	D 3	D 4	D 5	D 6	
基礎体験	自在に変化	2	3		3		1	1	2		1	1	2	16
	色の変化	3	1	4	2	3	2							15
	感触		2	4	2	2					1	1	3	15
	音		1											1
	多様な使用方法		2		1							1		4
		5	9	8	8	5	3	1	2	0	2	3	5	51
工夫点	色の変化	1				1	1						2	5
	感触		1	1										2
	形作る	1	3	7	3	2	1	3	4	6	8	4	7	49
	固定・強度	3	3	1	3	4	2	2	3	6	2	2	1	32
	しわ・襷	3	1	1	1	1								7
	装飾									1	1	1	1	4
		8	8	10	7	8	4	5	7	13	11	7	11	99
アピール	形作る		1	1	1	1		1	1	1				7
	固定・強度		1	1		1				1				4
		0	2	2	1	2	0	1	1	2	0	0	0	11
その他		B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	D 1	D 2	D 3	D 4	D 5	D 6	
アピール	遊び											1	1	2
	見え								1				1	2
	人						1							1
		0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2	5

いたため<固定・強度>に関する工夫も32件と多くなっている。これらについては12グループ全てで挙げている。<しわ・襷<sup>ひだ</sup>>の7件は、布同士の結びや紐で結んで偶然できるしわを模様として捉えたり、意識的に襷を作ったもの、そこにできる陰にも注目したものであった。布の重なりによる色の変化や布そのものの色の違いの活用のほかに、包み込んだ樹木の緑が透けて白に色味を与えるなどの<色の変化>も4グループで5件ある。作品づくりから加わった紐については、さまざまな色があるため布に巻きつける、結んでアクセントにするなど装飾的効果を得るための工夫として挙げている。アピールポイントとして挙げていたのは<形作る><固定・強度>に関する2項目のみで、7グループ11件の記述があった。

(5) その他 (5件)

環境要素と布の分類外の内容としてアピールポイントに記載されていたものをここにまとめた。<遊び>は、作品の中に入って遊べる (D5・D6) 魅力をポイントとしていた。複数の作品を前後に配して奥行きを持たせたり (D2)、人により怪物くん以外にも見える (D6) 特色を挙げた<見え>に関するもの。<人>は、自分たちも作品の一部として屋根の支えに参加した (B6) ことを挙げていた。



## 2. 作品アピールポイントの比較

屋外での活動を再開した平成26年度から3年間の作品アピールポイントの記載内容を分類したものが表5である。細部の注目点に違いはあるものの、全ての分類項目において今年度と昨年度には大きな変化は見られない。ところが平成26年度は「光」が1件のみで「空気」については記載がなかった。「布・紐」については17件と多く、記載内容の8割近くを占めている。平成26年度はグループ数が2つ少なく10グループで実施しているが、焦点としている「光・空気・環境」の記載件数の合計が4件で、今年度の19件と昨年度の16件に比べてかなり少ないことが分かる。

表5 過去3年のアピールポイント比較

アピールポイント		H28	H27	H26
光	日陰	4	7	1
	影	4	2	
	透明感	1		
	陽光・木もれ日	2	1	
		11	10	1
空気	膨らみ	2		
	動き	1	4	
	風	1		
		4	4	0
植物	装飾や小道具	3		2
	樹木	1	2	1
		4	2	3
布・紐	形作る	8	6	12
	固定・補強	3	4	2
	彩り		2	3
		11	12	17
その他	遊び	2	3	
	見え	2		
	人	1		1
	音		1	
		5	4	1
		35	32	22

### まとめと考察

布を使用した表現活動について、その過程を示す学生の記録「布の特徴を知る基礎体験」[作品作りにおける工夫][作品のアピールポイント]の3種の記述内容を見てきた。その結果記載件数から見ても、今回取り上げた環境要素の「光・空気・環境」に学生の目が向けられていることが分かる。全体的な傾向として基礎体験では「光・空気」共に関心が高く、工夫点やアピールポイントでは「環境」も含めて記載件数が減少していた。この原因の一つは、基礎体験と工夫点は個人記録であるのに対しアピールポイントはグループ記録のため元データが70枚から12枚に減少する量的理由がある。もう一つは「作品をつくる」という活動の特徴による。「布」(表4)に示されているように、99件の工夫点が挙げられ中でも「形作る」<固定・強度>は高く、イメージをいかに形にしていくかがここでの最大の関心になっているためである。このように量的に減少はしているが、過去3年のアピールポイントの比較(表5)で見ると環境要素に関する記述が昨年度から増加しており、これは記録内容を変更した時期とも重なることから一定の成果を上げることができたと言える。

記録の詳細を見ると学生が環境とどのように関わっているのかが見えてきた。

「光」については、光を受けた布の表面や陰の色に対する注目が高く、それが陽光や木もれ日といった光そのものへ、次いでアピールポイントでは日陰や影と関心が移っている。これらの推移は作品として何を作るかが大きく関係していると思われる。B2のグループはハンモック

クを作っているが、「光や風、緑が綺麗に見えた場所を選んで、ハンモックとして使ったら光や影にも目が向くようにした」という記述が示すように、休息の場として考えた作品のため日なたではなく日陰や木もれ日のきれいな所が選択されている。しかし学生の関心の変化は作品の形態によるものだけではないと考えられる。D5のグループでは、基礎体験の光について「光に当たると白の感じが強くなる」「影になる」の記述から、工夫点になると日陰を作る方法の他に「光と影を楽しめるように」「中から空を見上げた時の日差し、外からテントを見た時の木もれ日などを感じてもらえるように作った」と光や陰影の魅力を味わう記述となっている。

布の特徴を知るための基礎体験で注目した<白さ><影>は、太陽の光を反射してより白くまぶしく見え、同時にできた影も観察したことによるもので、布と光の二つの関係をとらえたものである。その後の活動で学生は布を介して光と交わり、その光が布を媒介にして日陰や木もれ日へと学生の関心を導き、新たな光の美しさに学生が気づき作品に生かしている。この光との関わりの中で変化していく学生の姿をこの記録が示しているとも言える。



D5：安らぎの空間(テント)

「空気」については、<膨らみ>や<動き>に関しては最終の作品記録のアピールポイントまで記述が見られたのに対し、<自在に変化><色の変化><手応え><音>は基礎体験のみでそれ以降はなくなっている。これに代わって<風>に関する記述が作品づくりの工夫点から新たに出てきた。B6とD5のわずか2グループのみだが、作品の形や動きのために働きかける空気としてとらえたものとは異なり、「風を通して気持ちよく感じられるようにする」「風を楽しめるように」と書いていることから、膨らみや動きなど視覚で確認できるものではない効果、心地よさを作品で表現しようとした取り組みである。

「環境」については、草花や木の実の色や形の面白さから作品に彩りを添える効果やままごと道具に見立てるなど細やかな使い方が主であった。すべての作品が樹木を支柱とするなど何らかの関わりをもっていたにもかかわらず、<樹木>に関して記載していたのは3グループだけであった。B2のハンモックとD3のブランコは「緑がきれいに見える場所」として樹木も作品の一部にしており、作品のある場所も含めた空間的広がりのあるものになっている。

これらの視点の推移については次のような見方もできる。基礎体験で行う①布をさまざまに動かしてみる、②自分の体に巻くという表現体験が、布を動かす、風になびかせる、身に着けるなどの布を使う行為を通して学生を「光・空気・環境」へと開いていく。これらとの関わり

から学生は新たな魅力を感じとり、前とは異なる自分になって作品に向かい、新たな自らの姿を表現している。矢野が言うように、媒介者となる布が自己と世界の通路を開くと同時に、「自己と世界とは、メディアを介して生まれる」<sup>3)</sup>様がここに示されている。「基礎体験—工夫点—アピールポイント」の記述にその軌跡が示されたものとする。

他方記載状況の推移からは次のような傾向も見えてきた。今回注目した「光・空気・環境」について、基礎体験では全グループが記載し、平成26年度に比べ作品アピールポイントにおいても記載件数は増加しているが、作品の工夫点とアピールポイントの両方に全く記載のないグループが存在することである。「光」では3グループ、「空気」では5グループ、「環境」でも5グループに記載がない。この3項目が重複しているグループもある。「巨大なくもの巣」を作ったD2は3項目全て記載なく、工夫点では布でくもの巣を作る過程、アピールポイントでは「くもの巣をリアルに表現するために糸を使用した」「奥にブランコを作ったことで奥行きが生まれた」と作品の形に関する記述のみである。作品を見ると、くもの巣のフレームを成している布に木もれ日があたり幾種類もの白が見えている。そこに樹木の緑が背景となって白と緑の組み合わせが美しい。これらが記録に反映されていないのは、学生が作品の魅力を十分に理解できていないことを示しているとも言える。同時に、この状況を補い更に布と自然環境の関わりの豊かさを伝えるために行っている作品発表会の講評が、十分に機能していない事実をも示している。この問題への対応が新たな課題として浮かび上がってきた。



D2：巨大なくもの巣とブランコ

## おわりに

今回焦点とした環境要素について、記録用紙のトップに課題目的を記した欄を配し、1番目の項目に「光・空気・環境との関係」を加えて基礎体験の段階から環境との関係について注目を促すことができた。白い色、陰の色など光による色の変化や風に吹かれて動く布の姿、持つ手に感じた風の力など、身体感覚を通して環境と関わる学生の姿を多くの記録に認めることができた。この体験が次の作品づくりへと向かうとき、樹木や木もれ日の美しさに目をとめ、白い布に表情を与える効果として生かされた。また太陽のまぶしさや強さは日陰の快適な涼しさとなり、作品を設置する場所として選ばれた。同様に吹き抜ける風の心地よさを実現するために風通しのよい作品構造を考える土台ともなっていた。これらは授業の初期段階で具体的な視

点を示し、行動の跡を言語化したことで蓄積されたものが背景となっている。今回の記録内容の見直しで環境に関する学生の関心を定着させる一定の成果挙げることができた。

しかしその一方で、「工夫したこと」に比べて「アピールポイント」では記載件数の減少と共に内容の薄さも見えてきた。また一部の学生が担当して書いているケースもあるためか全員の意見を十分に反映しきれていないことも原因となっている。そのために「工夫したこと」で挙げていた内容が消えるという事実もいくつかあった。自らの作品の良さに気づき、それを言語化する表現力を養うことも課題のひとつに残された。

おわりに、今回実践をまとめるにあたり、「布による表現」の取り組みを介して学生が自然そのものと対話している姿を見ることができた。この体験がここにとどまることなく保育者として子どもと向き合う機会にも生かされることを願う。

#### 参考引用文献及び註

- 1) 文部科学省：幼稚園教育要領<平成20年告示>、4頁、フレーベル館、2016.
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針<平成20年告示>、4頁、フレーベル館、2016.
- 3) 矢野智司：幼児理解の現象学、7頁、萌文書林、2014.

矢野は「子どもの理解は認識としてではなく、子どもとかわる行為の中でなされる。…私たちの心が子どもの心と直接につながっているからではなくて、身体と道具というメディア（媒介者）を介してしか交通できないからである。このメディアが私たちと子どもとの共通の世界を開いていく。」と述べ、[自己－メディア（技術－身体－道具）－世界]の関係から幼児の理解及び教育を捉えている。ここでいう「メディア」とは、「人が経験や体験をするさい、媒介となってそのメディアに固有の自己と世界への通路を開いていく、「もの」や「こと」のことである。」として、何かを伝える媒体という用語法とは異なる意味で使われている。